

『PRAGMO日本語版 ～河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き』

JRRN事務局／リバーフロント研究所 後藤勝洋

JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）の活動の一環で、昨年11月、英国河川再生センター（RRC）、JRRN会員、及び筑波大学白川（直）研究室のご協力を得て「PRAGMO日本語版 ～河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き」が完成しました。「PRAGMO(Practical River Restoration Appraisal Guidance for Monitoring Options)」は、河川再生の順応的管理に向けたモニタリングの考え方や具体的な手法が分かりやすく解説されたものです。



・原著者：英国河川再生センター
 ・発行：ARRN、JRRN
 ・監修：白川直樹 筑波大学
 准教授（ARRN 技術委員）
 ・翻訳：JRRN 会員ボランティア、JRRN 事務局
 ・編集：筑波大学白川研究室、JRRN 事務局

PRAGMO 日本語版（以下 URL で公開）

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/60>

「PRAGMO」の作成経緯や活用の考え方などについて、「PRAGMO」作成の総括責任者であるジェニーマント氏（英国河川再生センター 科学・技術マネージャー）の言葉を借りて以下に紹介致します。

「PRAGMO」の作成に至ったきっかけは、イギリスの河川再生プロジェクトにおいて、以下に示すようなモニタリングの問題点が明らかになったことによります。

- ・資金面からモニタリングの実施が軽視されている。
- ・モニタリングの目標が明確でない（プロジェクトの目的に適ったモニタリングが行われていない）。
- ・プロジェクト前後で一貫したモニタリングがなされていない（モニタリング結果を比較できない）。
- ・物理環境（生物生息場）と生態系を関係づけたデータの取得がなされていない。

このような実態を踏まえ、「PRAGMO」は、河川再生プロジェクトに関わる人々の誰もが、モニタリングを計画・実施でき、プロジェクトの適切な評価を手助けする手引きとして作成されました。「PRAGMO」は、プロジェクトの規模やリスク（複雑さ）に応じてモニタリングのアプローチ（レベル）を設定すること、プロジェクトの目的に適った実現

可能なモニタリングの目標を設定すること、物理環境（生物生息場）と生態系の相互関係を理解すること、モニタリングの優先順位を設定することなどを重要視し、モニタリング計画の策定の考え方が順を追ってまとめられています。

現在イギリスでは、様々な河川再生プロジェクトに「PRAGMO」が採用されており、今後それらのプロジェクトにどれだけ効果があったかフォローアップされてきます。また今後の展開として、河川再生の物理環境・生態系の側面に加えて、経済的・社会的な側面も踏まえた手引きの必要性も検討されています。

（JRRN/ARRN/RFC主催『市民による河川環境の見かた・調べかた～英国「PRAGMO」に学ぶ～』（2012年12月1日開催）講演録より要約）

「PRAGMO」は、河川再生事業の「順応的管理」に関するモニタリングを取り扱った、現状で数少ない手引きです。「PRAGMO」が今直ぐに日本の河川再生に適用できるわけではありませんが、今後、日本の河川に適した形で活用し、これを参考に現場で試行していくことで、我が国の河川再生の取り組みを支援できるものと考えています。

なお、「PRAGMO 日本語版」は、財団法人河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けて作成されたものです。

1. 本書の目的
2. 本書の概要と利用法
3. 事業の背景
4. 事業目標の設定
5. 物理作用と生物の関係
6. 事業リスクと規模に合わせたモニタリング目標の決定
7. 適切な技術と手法の選び方
8. モニタリングの時間スケール
9. モニタリング費用の算定
10. 既存資料の活用と協働
11. 事例紹介
12. 参考文献

PRAGMO 日本語版 目次

JRRNは、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所 国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。